

特別勘定クォーターレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アパディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	▲2.22%	0.09%	▲6.33%	▲6.09%	6.07%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	49.85%	50.00%	-0.15%
北米地域	30.92%	31.39%	-0.46%
欧州(除く英国)	8.46%	8.39%	0.07%
英国	1.97%	3.51%	-1.54%
日本	6.14%	4.43%	1.71%
香港・シンガポール	0.92%	0.89%	0.04%
豪州・ニュージーランド	1.43%	1.40%	0.03%
債 券	49.65%	50.00%	-0.35%
米ドル圏	18.33%	18.74%	-0.40%
欧州(除く英国)	16.49%	16.65%	-0.16%
英国	2.98%	2.88%	0.11%
日本	11.84%	11.75%	0.10%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	50.13%	50.24%
ユーロ圏	23.08%	23.27%
イギリスポンド	7.58%	6.39%
豪ドル(含NZD)	3.39%	2.17%
スイス・フラン	1.63%	1.76%
日本円	14.19%	16.18%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称	グローバルマーケット型
主な運用対象の投資信託	世界バランス・ファンド (適格機関投資家専用)
投資信託の運用会社	アパディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
▲2.22%	▲0.20%	▲6.61%	▲6.92%	2.26%	33.43%

特別勘定資産内訳

					構成比(%)
現 預 金	・	そ の 他	・	投 資 信 託	4.1%
合 計					95.9%
					100.0%

■ 上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 153)

株 式	国名	業種	投資比率
EOG RESOURCES INC	アメリカ	エネルギー	2.29%
ROCHE HLDG AG	スイス	ヘルスケア	1.98%
NOVARTIS AG-REG	スイス	ヘルスケア	1.96%
ORACLE CORP	アメリカ	情報技術	1.89%
CVS HEALTH CORP	アメリカ	生活必需品	1.78%
PEPSICO INC	アメリカ	生活必需品	1.74%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	1.66%
PHILIP MORRIS INTL	アメリカ	生活必需品	1.53%
JARDINE MATHESON HLDG LTD	香港	資本財・サービス	1.34%
VODAFONE GRP PLC	イギリス	電気通信サービス	1.30%
合計			17.46%

債 券	クーポン	償還日	投資比率
イタリア国債	0.700	2020/05/01	2.89%
アメリカ国債	0.000	2017/01/19	2.50%
アメリカ国債	1.375	2020/08/31	1.59%
アメリカ国債	0.875	2018/10/15	1.49%
フランス国債	0.000	2020/05/25	1.43%
アメリカ国債	2.500	2045/02/15	1.31%
スペイン国債	1.600	2025/04/30	1.05%
ドイツ国債	0.500	2025/02/15	0.87%
オーストラリア国債	1.750	2020/11/21	0.86%
アメリカ国債	0.125	2026/07/15	0.76%
合計			14.75%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

(7月) 10日の参院選で与党が大勝したことを受けて「アベノミクス」再加速への期待感などからその後は6連騰を記録するなど急反発となりました。
(8月) 軟調に始まり日経平均株価は16,000円を割り込む場面も見られましたが、米国を中心とする海外株高を好感し円安が進行したこともあり、やや上昇して月末を迎えました。
(9月) 米国の利上げ観測後退から円高が進んだことなどにより、日経平均株価で16,000円後半での動きとなりました。

・日本債券

(7月) 上旬には日銀の追加金融緩和期待から利回りは低下する場面もありましたが、株高を受けて上昇に転じました。
(8月) 投資家が様子見姿勢を強める中、日銀の金融政策変更への不安感が高まったことから長期金利は上昇傾向となりましたが、マイナス利回りに変化はありませんでした。
(9月) 前半は日銀の金融政策決定会合における追加緩和の発表の有無を巡って長期金利が大きく動く市況となりましたが、月間では横ばいとなりました。

・外国株式

(7月) 世界的に反発して日本と欧州で大きく回復し、エマージング地域も堅調でした。
(8月) 好調な米国雇用統計や原油価格の上昇などを受け、先進国では堅調ながら横ばいで推移しました。
(9月) OPEC減産合意による原油価格の急反発も反応は鈍く、米国およびドイツにおいて僅かな下落となりました。

・外国債券

(7月) 債券市場は米国の雇用者数の伸びを受けてFRBは利上げに慎重とされ、世界的にやや利回りが低下しました。
(8月) 月初に利下げをした英国で利回りがやや低下した一方、米国およびドイツでは上昇しました。
(9月) 欧州で量的緩和の延長見送りや、米国で利上げに慎重な見方が強まりましたが、先進国の利回りは総じてほぼ横ばいでした。

・為替

(7月) ユーロドルが安定し、円は強力な金融緩和の憶測から月初の100円台から105円超まで下落するなど月間で大きく乱高下し、月末には前月比やや円高で収まりました。
(8月) 日銀総裁の積極的な追加緩和姿勢が報じられ、対米ドルでは1円ほどの円安に振れました。
(9月) 日銀の21日発表の金融政策決定会合が注目され、円は月間ではほぼ全面高になりました。

運用概況

・今四半期(2016年7月～9月)のファンドのパフォーマンスは、基準価額ベースで+0.09%となりました。月別に見ると7月が+2.75%、8月が-0.37%、9月が-2.22%となります。円は主要通貨に対してやや高くなって為替はマイナスに寄与し、債券は世界的な利回り低位安定で影響は少なく、株式は世界的に回復しましたがプラス寄与は為替のマイナス寄与と相殺され、基準価額は僅かな上昇に留まりました。
・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。その主なマイナス要因となった銘柄選択効果は、株式部門では前四半期に好調だった欧州、日本、英国などで市場の上昇に及ばず、米国は当四半期も引き続きベンチマークに劣後しました。債券部門ではデレートを短めにしてきた日本が市場利回り上昇の環境で貢献しました。資産および地域配分効果は全体としては僅かなプラスで、債券へのオーバーウェイトはマイナスに、株式では大きく回復した新興国への配分はプラスに寄与しました。為替は、全般に円高となったことで円のアンダーウェイトはマイナス寄与となりました。
・今四半期の資産配分について、株式と債券の配分は中立とし、債券ではマザーファンドにおける先物の買い建て等によりオーバーウェイトとなりました。株式について、引き続き日本をオーバーウェイトし、新興国市場にも投資を継続しています。債券については、前期よりニュージーランドへの投資を行っていましたが、当期中に売却して米国へ振り替えました。為替に関しては、期初には全般的に中立としましたが、期末にかけてはやや円のアンダーウェイトとなりました。

運用方針

・特に割高感・割安感ともないと見られるため、株式、債券のウェイトについては現預金分を除けば中立を基本とする予定です。
・株式については日本のオーバーウェイト、英国のアンダーウェイトを継続する一方、香港・シンガポール、および豪州・ニュージーランドについてはいずれも中立に転じる方針です。
・債券については現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトとし、その他の地域については全般に中立とする方針です。
・為替に関しては金融政策の方向性の違いから米ドルをオーバーウェイト、ユーロおよび円をアンダーウェイトとするものの、ウェイト幅は僅かとなる予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して(年率 0.75% +運用実績に応じた費用 ^(※))/365日を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が年率 1.5% を超過した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.7344%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「スイス年金」は現在販売しておりません。

[募集代理店]

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>